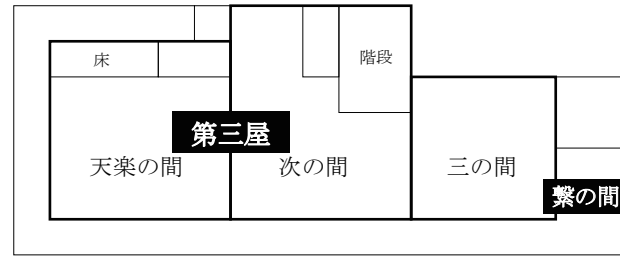


# 臨春閣

歴史を伝える

臨春閣玄関棟は昭和の戦災で倒壊したため、戦後復旧修理時に新たに建てられたことが記録として判明していました。そのため戦前のものは遺されていないと考えられていましたが、令和の大修理事業で地下の掘削を行ったところ、戦前の床＝四半敷きが遺されていることが確認されたのです。昭和修理でも歴史を尊重して遺し伝える事を工夫していたという事が分かりました。



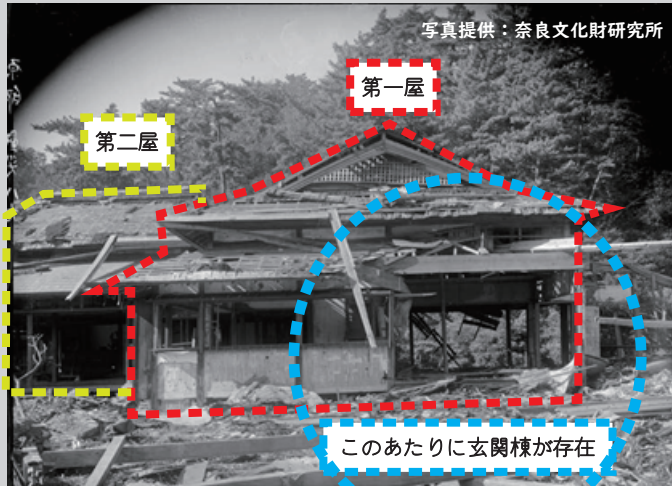
## 臨春閣：在りし日の姿 Rinshunkaku in its former days...

### 戦前の様子



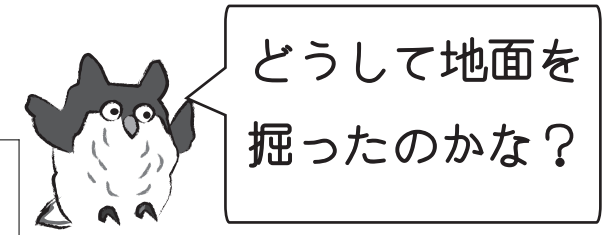
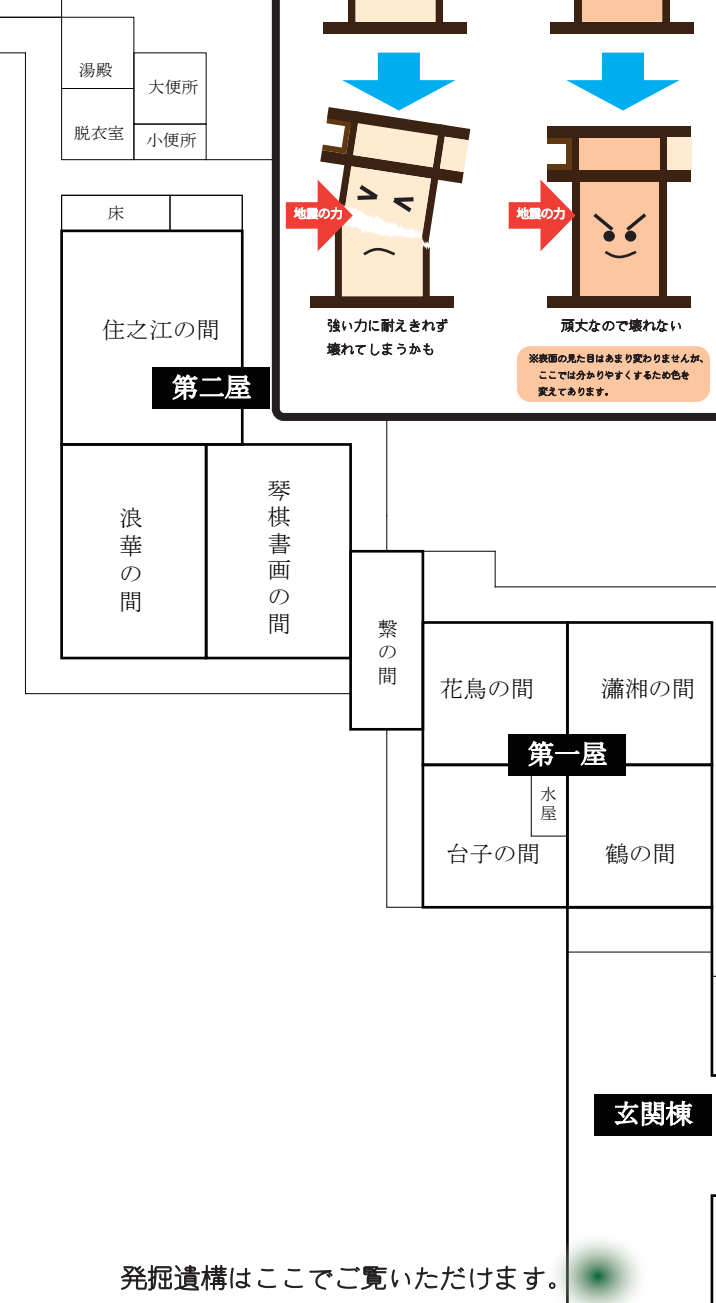
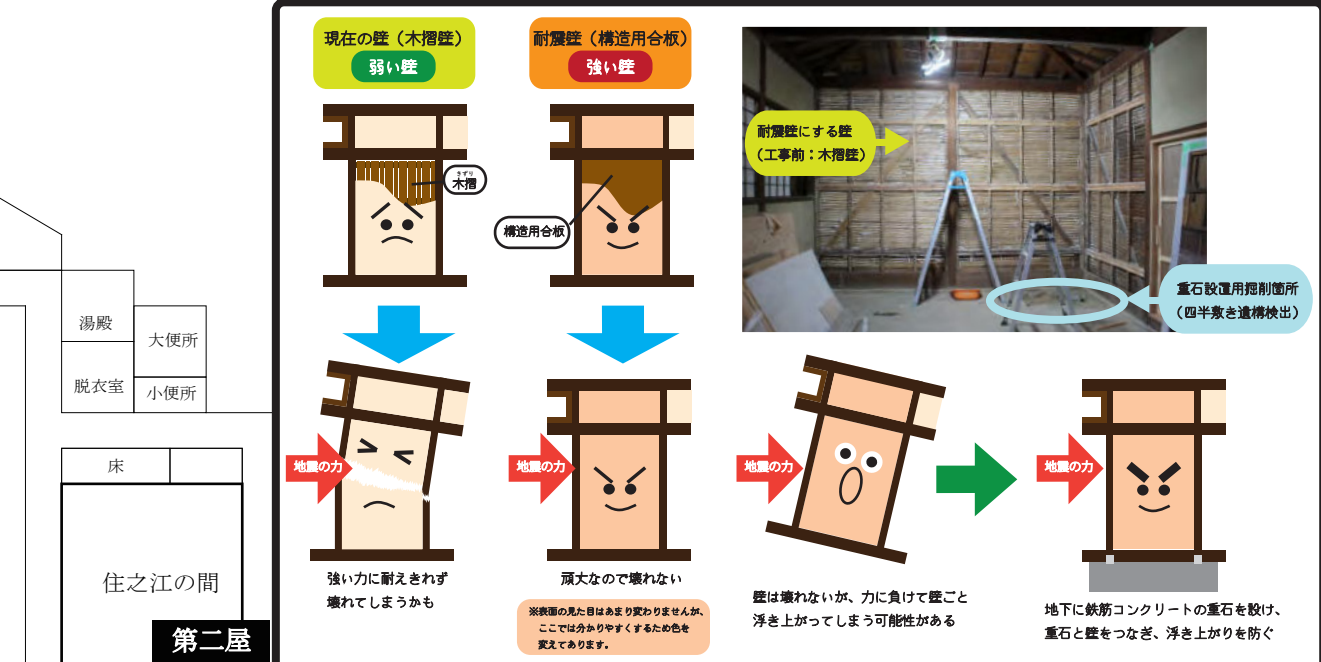
戦前の写真から、かつて床面は四半敷きであったことが分かっていました。四半敷きとは、石敷き・瓦敷きで、目地が縁に対して45度になるように斜めに敷いたもののことで、以前の玄関棟の床の素材は不明でした。発掘の結果、スレートが使われていたことが分かりました。

### 戦後すぐの様子



昭和20年の空襲により三溪園内は大きな被害を蒙り、滅失・焼失してしまった建物もあります。臨春閣の第一屋・第二屋・第三屋は半壊に留まり修理が行われましたが、玄関棟は完全に破壊され失われてしまったため、新しく建てられました。

## 今回工事における耐震壁設置工事の方策



耐震補強工事で、地下に重石を設ける必要があったからだよ。



発掘遺構はここでご覧いただけます。